

# 会報 みねだ

(第17号 平成26年 9月29日) 発行

みねだ地域づくり協議会  
企画広報部会担当

## 地域で長寿をお祝い

平成二十六年  
度嶺田地区敬老  
会は、九月十四  
日小菊荘を会場  
に、一四三名の  
敬老ご招待者  
をお迎えして開催  
されました。

当日は、嶺田  
地区自治会、地  
域づくり協議会  
などが日頃の感謝を込め、四〇名のスタッフ  
手作りのご長寿をお祝いする式典となりました。  
今年、菊川市のマスコットキャラクター  
「きくのん」もお出迎えをしました。



寺本実行委員長あいさつ

式典では、松本裕孝実行副委員長の開会の  
辞に続き、菊川市長からのメッセージを、赤  
堀正人建設経済部長が代読、寺本太郎実行委  
員長の「みなさん、ごきげんよう」の歓迎の  
あいさつの中、「男性八〇歳、女性八六歳の平  
均寿命、全国には百歳以上の方が五八、八〇  
〇人いらっしやる。良いおじいさん、おばあ  
さんにはならなくても、りっぱな、じいじ、  
ばあばになってください。」、とお願いがあり  
ました。  
来賓紹介と祝辞の後、出席者を代表して池

## 記念品贈呈の代表者



松永正彦さん(地区代表)



大橋はるゑさん(90歳記念品贈呈)

本益治さんが、ご招待、記念品へのお礼、実  
行委員への感謝とともに、「少子高齢化が進む  
中、社会に対して、また若い人にも負担を  
かけないように、いつまでも心身ともに健康  
でいて、出席できてこそ、喜びが増すもの」  
とお礼の言葉を述べられました。

千原良勝副委員長の閉会の辞で第一部終了。  
後半の「お楽しみ会」では、ふるさとを全員  
で合唱。嶺田サポーターの皆さんが舞台上か



池本益治さん

ら心のこもった  
素晴らしい歌声  
に感動する場面  
も。紅林みつこ  
さんのリズム体  
操、菅沼和代さ  
んの三味線演奏  
と歌。幼稚園児  
の歌と踊りに、  
多くの保護者が  
写真撮影に訪れ  
ました。

## 夏休み生き物展開催



で外国のカブトムシ・クワガタなど三〇種類  
以上の展示をしました。

また、カブトムシ、鈴虫の無料配布や金魚  
すくいもあり、子供たちは大喜びでした。  
たくさん生き物を提供してくださった地  
元の皆さんありがとうございました。

八月十五日から十七日まで、みね  
だ会館で「夏休み生き物・昆虫展」  
が開催されました。

みねだ地域づくり協議会が、子ど  
も向けの夏休みイベントとして、地  
域の人たちが持ち寄った魚・昆虫稲  
の鉢植えに加え、竜洋昆虫館の好意

# インタビュー

次のことをお伺いしてみました。

① 日々の生活で一番の楽しみは？

② 健康の秘訣を教えてください

③ 今一番の関心事とは？

④ これからの目標は？（生きがい）



池本好生さん  
77歳 西嶺田

- ① 自分の作った野菜の成長
- ② できるだけ外に出て農作業などすること
- ③ 地球温暖化のためなのか、災害が多くなっていることが心配
- ④ なし



松本俊雄さん  
85歳 中嶺田

- ① グラウンドゴルフ
- ② 毎日規則正しく食事をとること
- ③ 毎日のテレビニュースなどが楽しいと思っています
- ④ 毎日が健康で長生きをするのが大切だと思います



渡邊昇治さん  
83歳 大石

- ① グラウンドゴルフをやること
- ② 体を動かすこと、歩くこと。よい水を沢山飲むこと。よく噛んで、おいしく感謝していただく
- ③ 孫の研究が成功し、社会（世界）で認めてもらえること
- ④ 八十八歳を健康で迎えられること



竹内朔男さん  
86歳 東嶺田



菅沼勇之さん  
86歳 西ヶ崎

- ① 家族みんなで生活できること。嫁が毎日買ってきてくれるつまみ（鮪の刺身）で晩酌すること
- ② 規則正しく生活すること。好き嫌いななく何でも食べることに。地域の仲間と居酒屋で談笑すること
- ③ 親の児童虐待。東日本大震災で未だ仮設住宅で暮らしている人達
- ④ 自分の健康は自分で守る。地域の人たちと仲良く暮らすこと

- ① この年齢で野菜作り一年生。楽しいです
- ② 色々なことにチャレンジ。短時間で良いから熟睡すること
- ③ 掛け軸の表装に夢中になって居ります
- ④ 作った掛け軸を親しい人にあげることに

小池和豊さん  
80歳 堂山

① 田の見回り

## 救命講習会開催

- ② テレビを見ること
- ③ 健康でいること
- ④ 日々健康に暮らすこと

猛暑の続くなか、7月31日に安全部会の主催により『普通救命講習会』が行われました。

今回は、19名（男性16名、女性3名）が参加し、市消防署の指導のもと、一人ひとりが心肺蘇生法やAEDの使用方法を体験しました。

完全習得のため、効果確認テストを実施して終了しました。もし現場に居合わせたときには、勇気をもって行動できればと思います。

